

本部より情報提供⑤ 支部のみなさまへ、

「青森県支部」から埋め込み型機器の関連の記事が届きましたの参考にしてください。

①東奥日報 2017年8月17日(木)

心不全治療／植え込み機器進化／広範囲刺激  
「重傷者への効果期待」～弘大など国内初手術～

東奥日報 2017年8月17日(木)

心不全治療

# 重症者への効果期待

## 弘大など国内初手術

植え込み機器進化 広範囲刺激

弘前大学大学院医学研究科不整脈先進治療学講座などは8月から、重症の心不全患者の治療に、最新型の医療機器「両室ペースキング機能付き植え込み型除細動器（CRT-D）」を取り入れている。同講座によると、従来型による治療では植え込み手術を受けた患者の7割しか治療効果が得られなかったが、最新型ではより広範囲に心室を刺激し、効率良く心臓を動かすことができるという。佐々木高吾准教授は「これまでの治療では反応しなかった患者も回復する可能性があり、心臓移植するしかないと言われていた重傷者にも治療効果が期待できるかもしれない」と語る。

同講座は今日（17日）から最一日、国内初となる植え込み型最新型CRT-Dの日本販売手術を行った。

CRT（心臓再同期療法）は、心臓の左右の心室に電気刺激を加えて収縮のタイミングをそろえる治療法。

最新型は効率的に心臓を刺激できるよう、本体プログラムを改良。左心室の外側の静脈に入れるリード線にある四つの電極のうち、従来は電極一つから刺激を与えていたが、医師が患者に合わせて二つの電極（マルチポイント）を選べるようになった。これにより収縮タイミングのずれた部分をより広い範囲で刺激することが可能となり、海外では短期効果ながら従来比20％弱の改善が確認されたという。従来機器を植え込んでいる患者はリード線が対応していれば、本体を最新型に交換するだけでよい。

1日はメーカーが最新型の販売を開始。弘大では県内在住の60代男性に、セント・ジュード・メディカル（ミネソタ州）製の最新型CRT-Dを植え込み手術が行われた。

「最後の希望」ともいえるCRTだが、これまで、植え込み手術を受けた患者のうち3割は治療効果が認められなかった。実際に手術するまで効果の有無が分からないことも課題となっている。

最新型は効率的に心臓を刺激できるよう、本体プログラムを改良。左心室の外側の静脈に入れるリード線にある四つの電極のうち、従来は電極一つから刺激を与えていたが、医師が患者に合わせて二つの電極（マルチポイント）を選べるようになった。これにより収縮タイミングのずれた部分をより広い範囲で刺激することが可能となり、海外では短期効果ながら従来比20％弱の改善が確認されたという。従来機器を植え込んでいる患者はリード線が対応していれば、本体を最新型に交換するだけでよい。

1日はメーカーが最新型の販売を開始。弘大では県内在住の60代男性に、セント・ジュード・メディカル（ミネソタ州）製の最新型CRT-Dを植え込み手術が行われた。

【写真上】1日に日本で発売された最新型のCRT-D

【写真下】最新型のCRT-Dの植え込み手術を行う佐々木准教授（1日）



①陸奥新報 2017年9月5日(火)

「患者負担大きく軽減」  
～リードスペースメーカー今月から保険適用～  
弘大病院で運用開始

陸奥新報 2017年9月5日 (火)

# 患者負担 大きく軽減



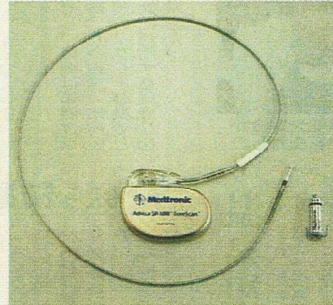
不整脈治療に使われるペースメーカーが大きく進化している。これまで体内で本体と心臓をつないでいたリードをなくした、心臓に直接植えるタイプの超小型カプセル型ペースメーカーが9月から保険適用され、東北で初めてとなる植込み手術が4日、弘前大学医学部附属病院で行われた。これまで見られたリードの断線や感染症、合併症のリスクが減り、傷口も小さく済むなど、患者にとって大きな負担軽減につながる。

リードレスペースメーカー今月から保険適用

## 弘大病院で運用開始

従来のペースメーカーは、電気刺激を心臓や皮下ポケット関連の感知器などのトランプルが見られた。また本体の電池を換える際に切開の傷が増えたり、外から本体の膨らみが分かるなど、外見上のデメリットもあった。新型のリードレスペースメーカーは、米医療機器メーカー「Medtronic」(メドトロニック)が開発したもので、長さ約2.5センチ、重さ1.75グラムと同社従来品の約10分の1の大きさ。太ももの静脈からカテーテル

弘前大学医学部附属病院では女性患者2人に手術を行い、成功した



で心臓に直接植込んで植も小さく目立ちにくい。え込むため、より傷口という特徴もある。今

後の手術時間、入院期間とも、半分程度に短縮される見込み。県内で現在手術可能なのは弘大病院のみで、4日は、弘前大学医学部研究科循環器内科・不整脈先導治療学講座の佐々木真吾准教授の執刀で県内在住の78歳と83歳の2人の女性患者に手術が行われ、無事成功した。現在のリードレスペースメーカーは、植込みが可能な筋肉の厚みが増える例が多いため、これからはリードレスのものが増える。左が従来品、右が新たなリードレスペースメーカー。従来品にあっただけの大きさで、今後は期待は大きい」と話した。